

「とてもこわいものがたり」

フリー
ストーリー
リ
ン
作

私は起きました。ベッドにいます。

そして、私はまどのそとを見ます。

今、^{いま}私はうちの二かいにいます。

でも、^{ほんとう}本当の私のうちは一^{いっ}かいです。

「ここはどこですか。」

そして、私の^{なまえ}名前は何ですか。」

分かりません。私はうちの一かいに行きました。私はいいました。

「ここにだれかがいますか。」

まだ、だれも何もいません。

私は少しこわいです。私はそとに行きました。

そとに行つて、かんが考えます。

でも：空^{そら}や、月や、たいようや、

星^{ほし}がありません。

何も見えません。

白^{しろ}いきりがあります。

とてもこいきりです。

私の町まちはぜんぜんきりがありません。

でも、ここが私の町かは分かりません。

「ここはどこですか。」

私はコンパスがあります。

私はコンパスで南みなみにあるきます。

どんどんあるきます…あるきます…

なにも 見えません。今、とてもこわいです。

私はさけびました。

「なにをしますか…」

私は音^{おと}を聞^ききました。

「コソコソ…コソコソ…コソコソ…」

私はいいました。

「だれかいますか。」

音^{おと}はつづきました。

「コソコソ：コソコソ：コソコソ：」

今、こえが聞こえます。名前をいいました。

「きむらさん：田中さん：リーさん：」
たなか

私はおもいました。

「私の名前はきむら？ 田中？ リー？」

分かりません。私はりょうてでみみを おおいました。それから、きたにはしりました。いえにはしりました。でも、うちがありません。私はいいました。

「なに?…」

私は北きたにはしりつづけれます。十分…三十分…一時間いちじかん…きたなにもありません。私はじめんにおちました。

私はたくさんなきました。

とつぜん、大きくて、きれいで、いそがしい町があらわれまして。私は、また、たちあがって、町にはしりました。

でも、私から町までの間に大きい
かべがあります。

「ズーム…ズーム…ズーム…」

こどもがいます。

こどもはゲームをしています。

このゲームは、

あたら新しいAIのゲームです。こど

もと、こどもの友達もともだち

います。友達はいいました。

「ゲームオーバーだよ…！」